

Title	アイスクリームの生産在庫管理システムの分析 - 某乳業メーカーの事例を中心にして -
Sub Title	
Author	小林昭(Kobayashi, Akira) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

小林 昭

主査 伏見 多美雄

(森永乳業株式会社)

副査 柳原 一夫

所属ゼミナール 柳原 一夫 研

小野 桂之介

アイスクリームの生産・在庫管理システムの分析 —某乳業メーカーの事例を中心にして—

アイスクリームは需要の季節変動が大きく、保管コストが非常に高い製品である。そのためアイスクリームメーカーにとって、その生産計画・在庫計画および製品ラインの計画等は収益性に重大な影響を及ぼす意思決定である。そこで、某乳業メーカーA工場の事例を中心にして、アイスクリームの生産・在庫システムをモデル化し、コンピュータシミュレーションによって、このシステムの構造を明らかにし、今後の生産在庫管理の計画化の一助とすることが本研究の目的である。

研究方法として4段階に分けて分析を進めた。第1段階として、某乳業メーカーA工場における実際の生産・在庫システムをその本質を歪めない程度にモデル化する。第2段階として生産体制を変えた時に生産・在庫費用がどうなるかを分析する。その結果、いくつかの代替案の中で変動生産体制がコスト最小となった。そこで第3段階として、変動生産体制のもとで最適生産水準(安全在庫水準)を求め、月末集中出荷の影響を分析する。第4段階として、製品数と生産・在庫費用の関係を解明し製品数の削減による効果を分析する。

分析の結果から、アイスクリームの生産・在庫計画に対して、次の3点が提言できる。①生産・在庫費用を削減する鍵は在庫コストであるから追加生産を基本とする生産計画を組むべきである。②月末集中出荷は、週の需要の10%が前月に出荷されるごとに年170万円の在庫コストの増加になるので、販売促進効果がない限りすべきではない。③製品数の削減は、削減による自社製品への代替率が80%以上の場合売上比率2%までの製品に関して行なうべきである。